第352号
平成28年
8月25日

すまいるたうん

発行元
東京新聞
南千住専売店
TEL3803-1781
発行責任者
鬼塚　佳代子
TEL090-2657-0300

「平和の大切さを伝えるために　私の戦争体験」

「ひとり一人の違う思いを残す」

荒川区は、東京初空襲をはじめ、太平洋戦争末期の大空襲等により甚大な被害を受け、多くの生命、財産が失われました。

戦後七十年の節目にあたる昨年12月より四回にわたり、荒川区と荒川区教育委員会主催で昨年、戦争体験記録作成講座が開催されました。

「戦争体験の話になると長々と話はつきない。それだけ、強烈な体験だったと思う。」

「戦争体験を聞くことに拒否反応がありました。」

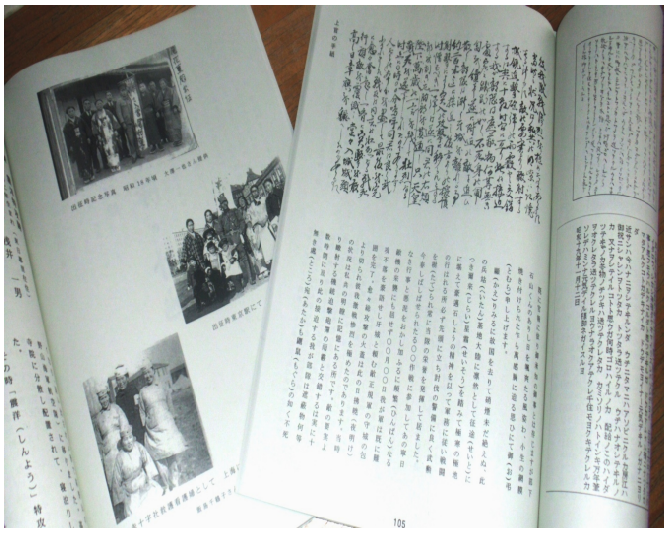
「戦後、七十年の機会に戦争の馬鹿らしさ、平和の大事さを子ども、孫、その他の人に伝えて、戦争の無い世界にしたい。」

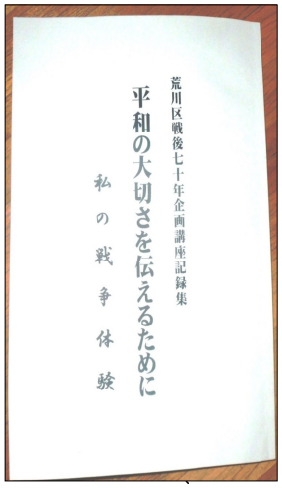
参加者の方々から色々な感想が寄せられました。

この度、講座の集大成として、荒川区戦後七十年企画講座記録集「平和の大切さを伝えるために　私の戦争体験」が刊行されました。

「その時代を生きた人の個人の記憶を記録しました」

大正4年～昭和17年生まれの方までの34名の方が執筆されています。同じ時代を生きていても体験した事は、ひとり一人違います。





記録集では、空襲・疎開・軍隊／外地・銃後の四つの項目に分け、皆様の思いを掲載しています。

軍隊／外地では、予科練、ニューギニア、ソ連抑留、救護看護婦された方たちなどが、当時のことを伝えてくださっています。

戦後生まれの私も講座に参加させて頂きました。「書くことはできないけど話はするよ。」と仰る方からは記憶を拾わせて頂きました。

銃後、灯火管制、機銃掃射、ララ物資、北支など知らない言葉が多くあり、とまどいました。

「戦時中、終戦直後を振り返って楽しいことは殆ど無かった。良く我慢して、耐えて生きのびたと思う。思い出したくないことも多々あるが、そのようなことを次世代に記録として残すことが我々の責務と感じた。」

写真や遺品を見せてくださった方、思い出したくない封印された記憶を残してくださった皆さんの思いは、一つ「平和の大切さを伝えたい」と思います。

貴重な資料・写真、終戦前後の東京新聞も掲載されております。

ぜひ、多くの方に読んで頂きたいと思います。区内の図書館に配置され、25日より貸出も行っております。

荒川区戦後七十年企画講座記録集「平和の大切さを伝えるために　私の戦争体験」のお問い合わせは、

◇荒川区役所　地域文化スポーツ部生涯学習課　TEL（3802）3111（代表）迄